健康豆知識

救命率にも ジェンダーギャップ？

2004年に一般市民のAED（自動体外式除細動器）使用が可能となり、2005年の愛知万博では実際に大学生がAEDを使って来場客を救命しました。今では小・中・高の指導要領にも心肺蘇生について明記され、学校教育の中でAEDの使い方を習った方も多いと思います。

心停止の状態で何もしないと、救命率は1分経つごとにおよそ10%低下しますから、救急隊の到着する前にできるだけ早く胸骨圧迫をして、AEDを使うことが大切です。しかしながら、このような生死にかかわる場面において、女性はより救命処置を受けにくい、という調査結果が出ています。緊急事態だとわかっていても、女性の衣服を脱がせて素肌を出すことに抵抗を感じ、迷いが生じるのだろうと分析されています。

AEDのパッドは女性の衣服を完全に脱がせなくても貼ることができますし、貼った後に衣服などをかけても大丈夫です。妊婦さんでもやることは同じです。もし倒れて意識がない人を見たら、ぜひ勇気をもって一歩を踏み出してください。

愛知淑徳大学健康医療科学部
健康栄養学科 教授
愛知淑徳大学クリニック内科 医師
前田 恵子